

すけども、何せ近いうちにはまた防衛省のほうから説明があろうものと思っておりますので、その際に詳しく訓練内容等、そしてまた、そのエリアの関係をどのように考えているのかということを知りたいなというふうに思っているところであります。

○副議長（春田 新一君） 10番、小島徳重君。

○議員（10番 小島 徳重君） 今、市長、答弁されたように、なかなか確定的じゃないということで、今までの表に、表面に出ていないんですけど、やはり地区住民としては、十分説明を受けた上でですよ、それを受け入れるか受け入れないか、まして範囲が浅海中学校以外にまでという想定があっているとしたら、そのあたりは、やっぱり市長として市民の意向確認、そして自衛隊からの情報収集というか、情報を開示していただくということは十分努めていただかないと、基地ができたわ、あ、自分たちが知っている範囲のことと違う内容だとなったら、やっぱり自衛隊に対する不信とか信頼が揺らぐと思うんですよ。やっぱり有事の際というのは、それは自然災害もありますし、国際的な有事もありますし、十分検討された上で自衛隊への情報収集、そして市民への説明、そして納得のいく上での、いわゆる基地ができることを、期待をしてというか、お願いをして、今日の質問は終わりたいと思います。

以上です。

○副議長（春田 新一君） これで、小島徳重君の質問は終わりました。

暫時休憩します。再開を11時5分からとします。

午前10時51分休憩

午前11時05分再開

○副議長（春田 新一君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。11番、黒田昭雄君。

○議員（11番 黒田 昭雄君） 改めまして、おはようございます。公明の黒田昭雄でございます。

まず、冒頭でございますが、今回の質問は带状疱疹ワクチン、ワクチンのお話、それと国の機関である海上保安庁に対しての質問というか、その題材になりますので、ちょっと冒頭申し上げたいと思いますけれども、まず、そのワクチンの話を最初いたしますけれども、ワクチン接種の原則論を述べなければなりません、ワクチン接種はあくまで強制ではなく、感染症予防の効果とリスクの双方を理解した上で、本人の意思で接種するものであります、これは原則論でありますけれども、私も市民の皆様強制するつもりは毛頭ありません。

ただ、一方で、打ちたいけれども、特に高齢者、経済的に大変な方が、打ちたいけれども打たれないので、それを市の資することと市長が判断してくださって、それによって助成制度をつくっ

てくださるのも、これも市長の業務としては大切なことだと思っております。

また、国の機関に対しての質問でありますけれども、これも公明党としまして、一応、国会議員等がこういうのはするべきじゃないかと私も思ったんですけども、指導を受けましたところ、今、漁協の皆さんが困っていると、そういう題材に対しては、対馬市長が問題を把握されて、対処していただいたほうが効果的だということを指導を受けまして、質問をさせていただくところでございます。よろしくお願いします。

では、通告に従いまして、2点質問をいたします。

まず、带状疱疹ワクチン接種についてでございます。

市長の公約のいの一番に健康寿命の改善を掲げられました。健康で長生きできる島、また、年を重ねるごとに楽しい、そういう島をつくりたいということだろうと思います。

今回、質問するに当たり、現場で実際に带状疱疹に罹患された方にいろいろ伺って臨んでおります。

带状疱疹にかかったら、とにかく痛い、今まで味わったことのない強い痛みに襲われるケースが多く、また、罹患後も後遺症としてその痛みに長い間さらされ続ける方も少なくないようです。発疹が出るので外に出るのもおっくうになる、入院された方もおられます。また、後遺症で顔面神経麻痺が残って、福岡の病院に、今、通っている方もおられます。ＱＯＬ（生活の質）を低下させる厄介なウイルスのようであります。

そこで、带状疱疹にかからないために、また、再発しないために、水疱瘡を予防する生ワクチンが使われてきましたが、2020年にそれよりも予防効果が格段に高い不活化ワクチンというものができることにより、より注目が集まってきたようであります。身近な人の苦しみ、大変さを見て、その御家族、すぐワクチンを打ちに来る方も少しずつ現れているようであります。じゃあ、気になる方は打てばいいじゃないかと思えますけれども、このワクチン、非常に費用が高い、打ちたいけれども躊躇する高齢者も少なくないようであります。このようなことから、带状疱疹のワクチン接種に助成制度を始めている自治体も増えてきているようであります。

特に、高齢者は重症化する可能性が高いといえます。带状疱疹ワクチン接種は健康寿命の改善に寄与し、また、高齢者が元気で働き続けられる社会をつくっていくことは、ひいては、島の経済、そして、市の財政に資するものと考えます。

それでは、3点、具体的に質問します。

まず、1点目が、本市の感染状況というか、罹患状況を伺います。

2番目に、ワクチンの効果をどのように考えておられるのか、伺います。

3番目に、ワクチン接種費の一部の助成ができないか、伺います。

次に、2番目、海の安全情報についてでございます。

海上保安庁が運用しております、海の安全情報について質問をいたします。

本市の三島灯台、老岐市の若宮灯台から30分ごとに風速・風向・波高などの気象の現況が、インターネットまたは電話を通して提供されているわけですが、三島灯台でいいますと、8月28日、夏の終わりですかね、から風速計の故障により、気象の現況が途絶えたわけでございます。長年、漁師をやってこられた方も、こんなに復旧が遅れたのは初めてだとか、あまりにも遅過ぎるという声が大半で、正確な事情が分からない中、かなりの人が個々人で海上保安庁に問い合わせたというお話も聞いています。

早期復旧ができるよう、県と共に海上保安庁に働きかけてほしいと通告を出したわけですが、既に市長のほうにはお伝えしておいて、担当部長を通して、海上保安庁には働きかけていただいたようでございますけども、まだ復旧が年を越えそうかもしれないというお話も聞いたものですから、このような通告を出しましたところ、その2日後に、若宮灯台は波高を除いてほぼ完了、そして、三島灯台は本定例会開会の前日に完全復旧をいたしました。ということで、結果として復旧できたということで、そして、少し早められたということで、改めて感謝を申し上げたいと思います。

通告したことは完了したわけでございますけども、したがって、一旦話はここで止めておきます。

ただ、復旧までの経過については疑義がありますので、市長の答弁をお伺いして、再質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○副議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 黒田議員の質問にお答えいたします。

初めに、带状疱疹ワクチン接種についてでございますが、带状疱疹は、水痘、一般的に水疱瘡と言われており、带状疱疹ウイルスによって引き起こされる感染症であります。

ただし、初めて水痘・带状疱疹ウイルスに感染したときは、水痘として発症します。多くの場合、水痘は子供の頃に発症し、1週間程度で治りますが、治療後もウイルスは体内の神経節に潜伏しています。その後、加齢やストレス、過労などが原因となって、ウイルスに対する免疫力が低下すると、神経節に潜伏していたウイルスが再活性化し、神経を伝わり、皮膚に到達して痛みを伴う赤い発疹を生じる病気でございます。

御質問の本市の带状疱疹の感染状況でございますが、带状疱疹は、感染症の県への報告対象となっていないため、県からは感染者の把握ができていないと伺っており、また、医療機関に照会しても確認できないと伺っております。

次に、ワクチンの効果についてでございますが、带状疱疹ワクチンは、特に高齢者に対して高い予防効果、資料によりますと89%とありますが、この高い予防効果をもたらす重要な予防手

段であると考えています。

次に、ワクチン接種費の一部助成についてでございますが、本年6月20日、第26回厚生科学審議会のワクチン評価に関する小委員会において、带状疱疹ワクチンの接種費用を公費で補助する定期接種に含めることが承認されました。これにより、带状疱疹ワクチンが定期接種として位置づけられ、接種費用の一部が公費で補助され、市民の負担軽減が図られることとなります。

今後、ワクチン接種の接種対象年齢や、その他の詳細については、専門家による会議で議論が行われ、その結果に基づき、正式に決定される予定となっております。この議論を経て、接種対象者の年齢や接種方法などが確定されることとなりますので、厚生労働省からの正式な通知を待ちながら、適切な準備を進めてまいります。

次に、2点目の海の安全情報についてでございますが、海上保安庁では、24時間体制で発表する緊急情報や海上工事に伴う交通規制情報などの海上安全情報、また、プレジャーボートや漁船などの船舶運航者やマリナー愛好者の方々に対して、全国各地の灯台などで観測した、風向、風速、波高などの気象・海象状況などを主にインターネットでリアルタイムに提供しております。

議員お尋ねの対馬市、上対馬町の三島灯台においては、8月28日から観測機器の故障により、気象情報が提供不能となっておりますが、10月22日に波高計が復旧し、風向・風速計につきましても、12月2日に修理が完了し、復旧しているとのことであります。

壱岐市勝本町の若宮灯台については、9月22日から機器故障が発生しておりましたが、11月22日に、風向・風速計が復旧したとの発表がっております。

対馬及び唐津の海上保安部にお尋ねしたところ、故障発生後に即時調査を行っており、故障箇所や原因を特定し、その後、復旧方法の選定を行う必要があります。また、特殊な機材であることから、機器の調達にも時間がかかるとのことでした。

灯台が設置される場所は、風雨や波浪条件が極めて厳しい場所であり、施設の老朽化や傷みも激しくなり、施工自体も気象条件に左右されることが多く、対応できる業者が島内に少ないことから、復旧までに時間を要したことを御理解願いたいと思います。

その他、気象情報を得る方法としましては、気象庁の発表や対馬無線漁業協同組合による対馬周辺海域の各種情報など、漁業無線を駆使して提供しております。また、民間企業からは、世界各地の高精度な気象データをリアルタイムに表示できる気象サービスなど、様々な情報を得ることができますので、船の航行や操業の安全、生命・財産の保全にそれらも活用いただければと思うところであります。

行政といたしましても、市民の生活及び生産活動に関連することとなりますので、関係団体とも連携して要望してまいります。

以上でございます。

○副議長（春田 新一君） 11番、黒田昭雄君。

○議員（11番 黒田 昭雄君） まず、順番を変えまして、海の安全情報のほうから再質疑ということでさせていただきます。

一応、市長のほうで、今回の気象の現況がそれだけ頼れなくてもという話があったようですが、これは分からない方のために申し上げなければいけないと思うんですけども、この気象現況というのは、特に漁師にとって重要なデータです。というのも、大概気象庁の海上予報が基本となって、それでもってこの現況をずっと見ていくわけですけども、少々波があつて、風があつて行かないという漁師であれば、それは稼げないんですよ。やっぱりぎりぎりのところで、危険を冒せなくても無理はするぐらいの漁をしないとやっぱり水揚げは上がっていけないわけですけども、そういったふうに、今日も15メートルぐらい西風が吹いていますけれども、こういうときには、特にこの気象の現況というのが重要でありまして、予報を第一義に考えながら、ずっと、出漁前にこのデータをずっと見るんですよ、何時間前から。そして、ぎりぎり行ってみようということを出漁をしたとしますけども、その間もずっと、やっぱり、ちょっと強くなってきたなといったら、そういうデータを見て、頑張れるかなと思えば頑張りますけど、ちゃんと餌を持って行って、漁が期待できる予想が立ったとしても、この気象現況がかなり悪くなってきたら、漁師というのは帰るんですよ。危険が漁より第一番ですから。このように、このデータというのは欠かせないものです。

多分、アクセス数とか何かは出てきませんけれども、多分、これ、アクセス数が出れば、物すごい数のアクセスになるかと思います。それぐらいこのデータは日々漁師がずっと見ているデータであります。

なぜ、この大事なデータ、この事故調査報告書とかも、このデータは必ず見てくださいと書いてあるんですよ。10年前、大きな事故がありましたよね、5名の方ぐらいお亡くなりになったイカ釣り船。あれは竜巻が急に起こってですけども、丘ではこの小雨ぐらい大したことないと思いますけど、高い山でもそうでありますけれども、海では小雨が降ったら物すごく風も波も立ってくるわけですけど、そういうふうにこのデータは重要なんですけども、どうしてこんなにも遅れてしまったのか。

私は迅速な対応が必要だと思っていますので、幾ら予算とか、いろんな理由づけ、あるかと思っています。あるかと思いますが、これは漁師の命を守る大切なデータでありますから、何よりも私は優先してもらいたいと思います。これは、庁のほうには、私は指摘しておきたいと思います。

また、漁協の組合長、会長さん、皆さん特に困られたと思います。組合員から執拗に尋ねられ

ても答えられないんですから。事情が分からないんですから。復旧は着々とやられていたとは思いうのですけれども、それらの計画と、おおよその見通しを分かる範囲で、漁協の組合長、会長の皆さんには事前に説明をすべきだったのではないかと思います。その上で、風速計の故障をカバーできる安全対策、関係者と共に講ずる、これも一方的ではなくて、やっぱり関係者と話し合いながら、庁は対策を取っていただきたいと私は思っています。

ここまで海上保安庁に対してでありましたけども、市長に対しましては、運用は庁がするわけですけども、市長は漁民の命を守る使命があると思いますけども、この漁業者等の命を守るための情報が一部滞ったということに対しまして、今後どのように働きかけをしてくださるか、それを期待しておりますけども、どのように考えておられますか、御答弁をお願いします。

○副議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに、今回のこの風向計、そして波高計等の故障というのは、漁業者の皆様は本当に困られたものというふうに私も思います。今後またこういうことがないように、海上保安庁等と連携を密にしながら情報を収集し、そしてまた、その得た情報をどのような形で、組合長をはじめ、漁業者の皆様へ伝達できるのかを研究してまいりたいというふうに思います。申し訳ありませんでした。

○副議長（春田 新一君） 11番、黒田昭雄君。

○議員（11番 黒田 昭雄君） 航海安全は漁師の皆さんが一番知ってますけども、全ての関係者の協力なしにはなし得ないことであります。もちろん海難事故が起これば、真っ先に海上保安庁の皆さんが助けてくださるので、漁師の端くれとして、大きなことは、言うのは本当に口がはばったいわけでありますけども、私は漁師であると同時に議員でありますから、代弁者として、今回の庁の、事故の経過といいますか、それは考えていつていただかないといけないと私は思っています。

市長のほうも、今後どういう形で今回の話を整理してくれるか、まあ、考えてから整理していくというお話をいただきましたので、その終わったところを組合長、会長の皆さんを通して漁師の皆さんに伝えられるように対策を取ってくれるということなので、もうその答弁を聞いて、この話は終わりたいと思います。

それでは、带状疱疹ワクチンについてでありますけれども、私も質問する前に、定期接種化をやっと厚労省が腰を上げたという報道は分かった上で今回したんですけども、どうしてしたかと言いますと、最初、糸瀬議員のほうで103万円の壁ということで支障があるんじゃないかと、私も何らかの支障があると思って、特にこういう助成系というのは今までしてないことでありますから、しないでも特に暴動というか、不満が起こることはないだろうから、削られると思って、この質問をあえてこうしたわけですけども、定期接種化が、国が動き出せば、国もその費用の

かなりの額を助成された上で、市がもうちょっと上乗せをする形であろうかと思えますけれども、今回はしないことを前提として、私も組み立てたもんですから、国がこのままの状態、予算がないからもうちょっと延ばそうということを想定して考えていただきたいと思うんですけれども、今、既に、正確なデータは分からないということですが、私も野口先生のほうにちょっと、打ちに行くと同時に、ちょっと指導を受けながら受けたわけですが、ちらほら受けてこられる方が、少ないけれども徐々に出てきましたよという話を聞いております。そういったふうを受けて、高いけども接種している方がおられます。

また、あまりにも高いから接種を控える方がやっぱりおられるんですよね。そういった意味で、定期接種化すれば、その対馬市も少ない助成で済むというのは理解していますけれども、もう市民も知ってますから、定期接種化してなくて、単独で市長がこの带状疱疹が大変だということで、市長の単独の判断であれば、それなりの、補助はないというのは理解をして、市民も決して少ないじゃないかと、怒ることはないと思うんですけれども、そういうふうに国が動かないことを前提として、私は今のこの状況、また、その他の自治体、県下では少ないとは聞いてますけれども、他の状況を考えても、市長がワクチン効果は期待できるという認識を持たれた、今、答弁をされたわけですから、国の定期接種化を待たず、その、定期接種化になったぐらいの対馬市の費用負担で、それぐらいの少ない費用負担で、私はこの带状疱疹の病気という周知を図る上でも早めに腰を上げていただきたいと思うんですけれども、そのところはどうか。

○副議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この带状疱疹の予防接種ということでございますが、今現在、対馬市では、季節性インフルエンザワクチン、そして新型コロナワクチンの接種について、その費用の一部助成を行っているところでございますけれども、本市におけるこの带状疱疹ワクチン接種の一部助成といいますのが、これが生ワクチンが1回1万円、そして不活性化ワクチンが1回2万2,000円で、これを2回打たなくちゃならないといったことで、かなりの高額であるために、その助成費用も結構大きな財政負担が生じることになります。

そこで、議員もおっしゃられるように、今現在、国において、この定期接種化へ向けての審議がなされているところでもありまして、国や県の自治体などの動向を注視しながら、この必要性等につきましても、検討を重ねてまいりたいというふうに思います。

私が担当課のほうからもらった資料につきましては、1万円を2回助成したときには、接種率30%としまして、約1億円ぐらいの財政負担が要るといったことで、ちょっとなかなか、すぐには難しい問題だというふうには考えております。

以上であります。

○副議長（春田 新一君） 11番、黒田昭雄君。

○議員（１１番 黒田 昭雄君） 分かりました。

もう一つ、定期接種化を待つということは理解できましたけども、最後に１点だけ。

市長は、ワクチン効果は期待できると、もちろんその期待できるというのは、私も素人であつて、市長も専門家ではない中で、厚生労働省のお墨つき、今回、定期接種化するというのは、効能が間違いないんだよというのと、費用対効果が期待できるという、厚生労働省が発表していますので、私も、そういう、厚生労働省のそんな発言なしに、こういう場でワクチンの話とかするのは非常に臆病になるわけですけども、厚労省がここまでワクチン接種の効能と費用対効果を認めたわけですから、定期接種化を待つにしても、まだ、この、国がしなければまた一般質問をして、お願いしていくこともあろうかと思うんですけども、まずは、その、ワクチン接種の効果が期待できるということは、打っても大丈夫というお墨つきがあるということであれば、私は対馬市の、個人病院は別として、診療所とか、また、対馬病院あたりには、医師会を通してみたいなことになろうかと思うんですけども、この带状疱疹ワクチンを、広めるというか、周知というかですかね、まだ自腹というのは、その任意接種でありますけれども、そのポスターを貼るとか冊子を置くとか、そういうのは、私はしていただきたいと思うんですけども、そういった周知のことについては、どうお考えでしょうか。

○副議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 先ほど、この発症予防効果は５０歳以上で８９％というふうに資料ではなっているところがございますけども、これを、先ほども申しましたように、接種率を３０％として、５０歳以上の方に２回助成をした場合が、試算が１億円かかる、ということで、私、担当にも聞いたんですけども、ただ、対馬の中で、今、実際にこの带状疱疹ワクチンといいますが、带状疱疹にかかった人はどのくらいいるのかと尋ねたところ、これ、冒頭申しましたように、これ、県への報告義務がありませんし、病院のほうも、これは聞いても教えてくれないというようなことでありますので、そういった、あまり根拠がちょっと薄い中で、どこまで踏み込んでいいのかなというようなことは、私自身考えてはおりますけども、そういうことで、市民への周知というのももう少し、この国の議論を待った上で考えさせていただきたいというふうに思います。

○副議長（春田 新一君） １１番、黒田昭雄君。

○議員（１１番 黒田 昭雄君） この件はちょっと入れ違いになったと思うんですけども、ここで市長が単独で指示をしますとか、それは言えないというのは理解しているですよ。いろいろ話し合うというか、医師会、そういうところに投げかけてほしいというお話をしたわけございまして、それは投げかけてくれるというお話、今も話しているわけですから、それをお願いしたいと思って質問をしました。

受けるということなので、これで質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○副議長（春田 新一君） これで、黒田昭雄君の質問は終わりました。

昼食休憩といたします。再開を13時ちょうどからとします。5分からとします。13時5分からとします。

午前11時42分休憩

午後1時05分再開

○副議長（春田 新一君） それでは、再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 16番、対成会、大浦でございます。今年度の4回目の定例会の中で、振り返ってみますと、漁民から一言、この問題を表に出してもらえんじやろうかということをお願いしまして、筆頭に今回の問題を提起しております。

それでは、通告に従いまして、市政一般質問を行います。

1つ目は、漁船の廃船処理について。

このことを、先ほど申し上げましたとおり、市長に尋ねてみたい、このように思っております。

令和4年の港勢調査によると、漁船数は3,563隻、漁業従事者数4,090人となっておりますが、県の資料によりますと2,569人が正解じゃないかというふうなことで、2,569という数字をこの場で修正をお願いいたします。事後に協議行ったものですから、このようになっております。

そのうち60歳以上高齢者は約7割を占めており、近い将来、廃船処理は避けられないようではありますが、どのような方向性が、今後、考えられるのか、お尋ねをいたします。

次に、道路管理について。

今回は、農道大面線、これ、今里であります。市道鑓川線、これは鑓川松原間の道路でございます。このことを事例に挙げますが、ともにアスファルト舗装でありながら、路肩の消耗・損耗が著しく、危険な箇所があるようでございます。しかし、補修は全くされておらない状況にあります。特に、大面地区は仁田ダムに次ぐ、ゴルフ場で利用度は極めて高い、片や、鑓川線は低いようであります。

今後、市の道路管理はどのような方針で臨むか、この2つの事例に挙げたことだけで結構ですが、その方向性を示してほしいと思います。

次に、最後になりますが、がん検診の不利益について。

検診の目的はがんの早期発見であり、検査料金の大きな軽減措置があり、非常によいシステムと思われます。ただし、検診を受けてがんであることに、これが見つけられないことがあると資料に記載されているが、対馬市の実態について、これがどうなのか、近年の数字がもし調べた状